

都立立川短大	石毛フミ子
	岡田 陽子
桜美林短大	菅原由紀子
聖徳学園短大	○藤井 香代

1. 縫いつれの原因は、ミシンによる場合、糸による場合、布による場合などいろいろな要素が加わっていることはいうまでもない。裏地は、一般に薄地で密なものが多いために縫いつれがかなり目だつ。そこで、裏地に適した糸の種類・太さ、針目の大きさを求めるために、針目の大きさ、糸の種類をかえて縫い、縫製後と洗たくによる縫いつれを測定した。

2. (1)実験材料は第2報に同じ

(2)実験方法 各材料から6cm×25cmの布をたて・よこ両方向に64枚ずつ裁断し、幅を二つ折りにして25cm間にマークし、針目の大きさ、糸の種類をかえて縫い、縫製後および洗たく1回、3回、10回後における縫いつれを測定した。なお、同一試料について5枚ずつの平均値を求めた。

3. (1)各試料とも縫製後ならびに洗たく後における縫いつれは、よこ方向よりたて方向が大きい。(2)針目を同じにした場合、羽二重糸50番がカタン糸80番、ナイロン糸80番、テトロン糸80番より縫いつれは大きい。(3)キュプラ・交織は、各縫い糸とも5針(1cm間)の縫いつれは縫製後1%程度、洗たく10回後で4%程度であった。絹は、縫製後1~2%程度、洗たく10回後で6%以上の縫いつれがあるものもみられた。また縫いつれは、4針ではやや少なく、6針ではいくらか増大の傾向がみられた。